広島に新しい生涯学びの拠点「コミュニティ・アカデミー上幟」（広島市中区上幟町10-15-201、畠田ビル２F）が、2015年11月11日に正式に誕生しました。初日の２時限（13:00~14:30）には、６回連続講座「フランス中世の文学」（講師：原野　昇）の第１講「ヨーロッパ中世から現代を考えるー中世は暗黒時代か？」が、４時限（18:30〜 20:00）には、４人の講師が一人１回ずつ講義する輪講（オムニバス）形式のセミナー「広島の歴史と文化」の第１回目「築庭400年—縮景園の歴史と文化」（講師：入川　実）が開講されました。後者には、定員（30人）を超える受講生が来聴し、盛会なスタートとなりました。

　いつでも、どこでも、誰でもが学べる生涯学習の環境を支える受け皿として、大学（エクステンション事業）、自治体と並んで民間団体（各種のカルチャーセンターや広島大学マスターズもその一つ）があるが、このほど創設された「コミュニティ・アカデミー上幟」は、そのような民間団体のなかでも、１回１回の講座を大切にすると同時に、受講生一人一人の学びの意欲を大切にすることをモットーにしており、この種の「生涯学びの拠点」として、全国に誇れるアカデミーになることを目指しているそうです。

　そのために、近く運用が開始されるホームページ（<http://manabi-kaminobori.com/>）において、各講座の各回ごとに、講師によるその回の講義の要旨と、受講生１〜２人による受講感想文が掲載されるそうです。